

とあるバイトの話

1年C科 平田 拓海

・はじめに

今年の5月ごろから某飲食店でバイトとして働くようになったので、そこでの出来事など。あと、諸々の都合で具体的な会社名は出せないのそこらへんはご了承ください。しいていうなら「間ッ丸」。

・きっかけ

今年の3月からバイトしていた某派遣会社があるのだが、5月上旬ごろから急に仕事が無くなったそうで全く派遣してもらえなくなり、それが2週間ほど続いたとき「あ、これは干されたのだな。」と納得。その週の休日にぼんやり携帯でバイトを探し近所にある某飲食店のページでバイトの募集に申し込む。

・面接までの流れ

バイトを申し込んだ翌日の日曜日の朝、仕事もないので部屋で携帯で音楽を聴いていたら着信音流れ、知らない番号からの電話がかかってきたことに気付く。最初何かのセールスかと思ったが、知り合いだとまずいのでとりあえずヘッドホンを外し電話に出るが、相手の声がよく聞き取れなかったのでそのまま切った。数分後また同じ番号から電話がかかってきたので電話にでたのだが・・・

「(私) もしもし」

「(相手) もしもし、某飲食店〇×支店のTと申します。重ね重ねお電話かけてすみません。先日当店のウェブからバイトの募集登録を行った方ですよ？」

・・・・・・・おわた。

と思ったが、その後面接の日時についての話が始まったのでまだチャンスはあるらしかった。とりあえず履歴書書いて後日面接へ行き、かるく面接&ペーパーテストをこなすと合格した。ちなみに面接の相手はTさんで、その店の店長だった。前のバイトやめてから1週間もたたないのに新しいバイトが見つかってよかった。

・ 徹夜

このバイトはシフト制で自由に時間を決めて仕事することができるのが魅力の一つだが、周りの人の都合でたまにとんでもない時間に仕事をたのまれる時がある。私は普段は昼間から夜9時ぐらいに働いていたのだが、その日は店の大掃除を夜中にやるから夜11時から朝6時まで仕事に入ってくれとのこと。丁寧に断ってもいいのだが深夜の時給は昼間よりも高いので引き受けた。ちなみにこのときは店に客はこないのでも周囲の道路もとても静かでありかなり不思議な感じ。さすがに大掃除というだけあって力仕事盛りだくさんで次の日は筋肉痛だった。朝日がまぶしい。

・ ピーク

飲食店や客商売のバイトをした人はわかるだろうが、ピークという時間帯がありその時間帯は客の数がハンパじゃない。私は飲食店のバイトはこれが初めてだったのでピークがどのようなものかまだ理解していなかった。初めてピークに入ったときは作るのがまるで追いつけず駄目だったが、最近はある程度ピークの時間帯でもうまくさばけるようになってきた。たまに「●×バーガー50個」「▽×チキン50個」のような大量注文が入ってくるのだが、これは無理。

・ おわりに

色々バイトやってきたけど一番つらかったのがポスティングといってチラシ配りのバイトで1枚配って0.5円。あの頃は中学3年だったから気がつかなかったけど、時給換算したら労働基準法にふれていた。やっぱりバイトに時間を使うのなら効率のいいところに限る。他には郵便局での年賀状配達やアイス会社の倉庫整理やひたすらバナナを箱につめたり、洋服を箱につめたり、ワインを箱につめるバイトなんかも。

今のバイトはまあ色々あって楽しい。時給は安いけど時間数でカバーしているのでそれなりに稼げている。ただ、なかにはコイツとは仕事したくないって人もいるのでそこら辺は気合で。あと、これからはなるべくバイトの時間を減らしていきたい。時間がもったいないので。